

| | | | |
|-----|---------------|-----|-------|
| 科目名 | マスコミュニケーション概論 | 教員名 | 石川 勝博 |
|-----|---------------|-----|-------|

授業のテーマ・目的・概要

現代社会におけるマス・コミュニケーションの諸問題について学びます。マス・コミュニケーションは、一般的には「マスコミ」と呼ばれていますが、その意味は様々です。そこで、諸概念を整理し、なるべく広い視点から「マスコミ」を捉えてもらいます。その上で、マス・コミュニケーションに関する主要な研究について概説します。

この授業の目的は、マス・コミュニケーションに関する基本的な用語、概念を説明できるようになること、さらにそれらの用語を用いて、現実のマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることにあります。

科目で養成される能力

読む力、調べる力、聴く力、整理する力、考える力、まとめる力、書く力、伝える力、話す力、分析力。

授業の計画

1. オリエンテーション（講義の目的、評価の方法、受講上の注意、学び方）
2. マス・コミュニケーションの基礎知識（1）
3. マス・コミュニケーションの基礎知識（2）
4. マス・コミュニケーションの送り手（1）放送産業
5. マス・コミュニケーションの送り手（2）放送産業
6. マス・コミュニケーションの送り手（3）新聞産業・出版産業
7. マス・コミュニケーションの受け手（1）「利用と満足」研究
8. マス・コミュニケーションの受け手（2）「利用と満足」研究
9. 小テスト（予定）
10. マス・コミュニケーションと政治・世論（1）
11. マス・コミュニケーションと政治・世論（2）
12. マス・コミュニケーションと広告（1）
13. マス・コミュニケーションと広告（2）
14. まとめと期末試験の説明
15. 期末試験

指導方法（授業形態と方法）

基本的にはパワーポイントやビデオを用いた講義形式ですが、逐次のディスカッションなども行い、知識の定着に加え、分析力や発想力の涵養を図ります。普段から、各種のマス・メディアに触れ、社会問題に関心を持つよう心がけて下さい。

成績の評価方法・基準（成績評価の際、重視すること）

出席点（10点）＋小テスト（18点）＋期末試験（72点）の結果に基づき評価します。

担当者からの一言・受講上の注意等

第1回目は、講義の進め方や評価の方法について、詳細に説明しますので、必ず出席するようにしてください。なお、この授業は配付資料にそって展開します。資料は、クリアファイルなどに綴じて、保管しておくといいでしょう。

教科書

適宜、資料を配布します。

参考書

- 『現代マスコミ論のポイント 第2版』 天野勝文ほか編 学文社 2001年
- 『マス・コミュニケーション理論 メディア・文化・社会 上』 バラン, S. J. ・デイビス, D. K. 宮崎寿子(監訳)
新曜社 2007年
- 『マス・コミュニケーション理論 メディア・文化・社会 下』 バラン, S. J. ・デイビス, D. K. 宮崎寿子(監訳)
新曜社 2007年
- 『コミュニケーション・モデルズ マス・コミ研究のために』 マクウェール, D. ウィンダール, S. 山中正剛・黒
田勇訳 松籟社 1986年
- 『ゼミナール日本のマス・メディア』 春原昭彦・武市英雄編 日本評論社 2004年
- 『マス・コミュニケーション概論』 清水英夫ほか 学陽書房 1997年
- 『マス・コミュニケーションの社会理論』 竹内郁郎 東京大学出版会 1990年